

12月 新着図書

おひとり2冊まで、2週間（新着本は1冊）借りられます。



日野南コミュニティーハウス

赤と青のガウン オックスフォード留学記

著者名：彬子女王

女性皇族として初めて海外で博士号を取得された彬子女王殿下による英国留学記。待望の文庫化！《赤と青のガウン》それは、私が博士課程を始めたときからいつか着る日を夢みてきたものだ。五年間の留学生活中、何人もの友人が博士課程を無事修了し、オックスフォードを旅立っていく様子を何度も見送ってきた。晴れ晴れとした表情でこのガウンを身にまとい、学位授与式が行われるシールドニアン・シアターから出てくる友人たちの姿は、誇らしくもあり、またうらやましくもあった。オックスフォード大学の厳しい博士課程を成し遂げた者しか袖を通すことを許されない赤と青のガウンは、くじけそうになったときにふと頭に浮かび、オックスフォードに来たときの自分に立ち返らせてくれる「目標」だった。

小鳥とリムジン

著者名：小川糸

やっとドアを開けることができたお弁当屋さんが、その人との出会いの場になりました。いいにおいがかぐこと。おいしいものを味わうこと。いやなことにはいやだと言うこと。大好きな人に触れること。心と体を取り戻す、いとおいしい物語。

架空犯

著者名：東野圭吾

誰にでも青春があった。被害者にも犯人にも、そして刑事にも一。燃え落ちた屋敷から見つかったのは、都議会議員と元女優夫婦の遺体だった。華やかな人生を送ってきた二人に何が起きたのか。『白鳥とコウモリ』の世界再びシリーズ最新作。

恋とか愛とかやさしさなら

著者名：一穂ミチ

プロポーズされた翌日、恋人が盗撮で捕まった。直木賞受賞第一作。全国の書店から過去最大級の反響が殺到中の、著者新境地となる恋愛小説。

気の毒ばたらき

著者名：宮部みゆき

千吉親分の文庫屋が火事だ！現場に駆け付けた北一が見たものとは。謎解き×怪異×人情が味わえる人気シリーズ第三弾！

マイナーノートで

著者名：上野千鶴子

ひそやかに奏でる想い、抱きしめた記憶一。子ども時代の素顔から、喪失のいたみ、次世代へのまなざし、後期高齢者の現実まで。自らの「夕景」を凜とした言葉で奏でた、待望の最新エッセイ集。

百年かぞえ歌

著者名：大崎梢

里海町の町役場で地元出身作家の文学館「貴地崇彦生家館」の担当をしている由佳利は、刑事からの聞き込みで戸惑っていた。他殺疑いの青年遺体が、作家と関係があるらしい。驚く由佳利を、以前に会った老齢女性の艶子が訪れる。艶子は若いころ貴地の愛人だったと噂される存在だ。艶子の勢いに吞まれ調査を進める先で由佳利は、中学高校で同級生だった夏央に再会する。彼は昔、ある場面を目撃していた。やがて、貴地が謎の「かぞえ歌」を残していたことが分かり、そこに隠された秘密をたどるのだが…。

秘色の契り 阿波宝暦明和の変顔末譚

著者名：木下昌輝

三十万両もの巨額の借財を抱える徳島藩。藩政改革を担ったのは、型破りな人物だった。徳島藩蜂須賀家の物頭、柏木忠兵衛は新藩主候補との面会のため、江戸に急いだ。藩の財政はひっ迫している。新たなまとめ役が必要だった。しかし。「政には興味なし」新藩主となった蜂須賀重喜はそう言い放つ！家老たちの専横に抗して、藩主の直仕置による藩政改革をめざす忠兵衛ら中堅家臣団。対立が激化するなか、新藩主が打ち出した驚きの改革案とは！？そして、徳島藩を狙う大がかりな陰謀とは…。アクション&サスペンス満載、著者渾身の時代長篇！

サザエさん 1～10

著者名：長谷川町子

昭和21年(1946年)~昭和49年(1974年)に『夕刊フクニチ』『朝日新聞』などで連載され、長谷川町子が設立した出版社『姉妹社』で刊行された『サザエさん』全68巻を装いをかえて全45巻にまとめたものです。

